

そ う が み く

前期号 (No. 38)
22.10.29 発行
現職研修委員会
総合的な学習部編集



新しい命息づく総合に

総合的な学習部長

平木 教男

昨年度で閉校となった鳥川小学校の近くに、世界で唯一ここだけにしかないという梨の原種「トヨトミナシ」Pyrus mikawana Koiz.」がそびえていました。樹齢は推定三百年。巨木が折れ、そのひこばえが生長して今の姿になったのですが、閉校を半年後にひかえた九月に来襲した台風のため、再び根元から折れてしまいました。このままでは貴重な種のひとつが地上から消滅してしまいます。なんとかしたいと思いましたが、懇意にしている植木屋さんに相談してみると、方法は二つあるとのことでした。

「一つは植物特有の栄養体生殖、つまり「接ぎ木」や「挿し木」、もうひとつが種を蒔く「実生（みしょう）」という方法です。」

接ぎ木や挿し木であれば、穂親と全く同じ遺伝子を持ったクローンの個体がいくらでもできるはずです。植木屋さんはこう続けました。

「でもね、生き物には必ず寿命があります。このトヨトミナシの種固有の寿命が五百年だとすれば、この個体はすでに三百年生きています。だか

ら、たとえ挿し木で作った幼苗が成長したとしても、その寿命は残りの二百年。接ぎ木や挿し木は、見た目は子どもでも、年老いた親木そのものなのですよ。」

なるほどと思いました。自分にとって大変な価値ある気付きに出会いました。

そういえば今、桜の代表選手であるソメイヨシノは、木そのものの勢いが弱っており、天狗巢病などに侵されているものがとても増えているようです。ソメイヨシノは、十八世紀に江戸で見つかり、以来、永々と植木職人が接木を繰り返してきたもので、もとは一本の桜であると聞いています。桜の寿命は数百年ですから、この論によるとソメイヨシノは種の寿命に近づいているということになるのでしょうか。

さらに植木屋さんはこう結びました。

「実生で育てれば、今までの資質に新しい遺伝子加わり、その植物固有の新しい命、たくましい命が息づくのです。」

新指導要領の本格実施が迫ってきました。「総合的な学習の時間」については、探究的な学習と、協同的な態度が重要であることが明確に示されました。また、探究していく課題そのものに価値ある気付きがあることが重要なポイントであると思います。

今までの各校の実践を基に、新しい総合的な学習の時間を構築していくわけですが、単に過去のいいとこどりに終始するのではなく、環境学習プログラムという新しい遺伝子を加えた実生から、新しいのち息づく総合を育てていきたいと思えます。そして、その中に含まれている岡崎の子どもたちが共有すべき価値ある気付きを子どもたちとともに見つけていきましょう。

閉校を前にした二月、嫁ぎ先の庭先でふるさとの鳥川から持ってきたナシの種を播き、大切に育てている方を見つけました。その苗木はすくすくと育っており、トヨトミナシという種は確かに保存されていました。

夏の研修報告

◆三教研夏季研修会 報告

8月3日(火)、甲山会館・

市民会館において、三教研夏

季研修会が開催されました。

岡崎からは、竜海中学校の富

田範和先生が実践を提案さ

れました。環境学習について、身近な生活から企業の

活動まで生徒の思考を深める展開に参加者から称賛

の声ががりました。

◆夏の授業力アップセミナー

8月5日(木)、岡崎市南

部市民センターにおいて、授業

力・教師力アップセミナー(基

礎編)が開かれました。前半は

竜海中学校の栗山茂三先生、北

野小学校の山本貴之先生が日

常の総合の実践を提案され、実

践における工夫点や問題点の



富田範和先生 (竜海中)



山本貴之先生 (北野小) 栗山茂三先生 (竜海中)

解決方法について討議されました。後半には東海中学校の堺正司先生を講師にお招きし、「探究的な授業作り」・「環境学習への取組」と題して実践の組み立て方をご指導いただきました。「年間指導計画」をまずは立てていくことが取り組みの第一歩であることを学習することができました。



堺 正司先生 (東海中)

◆岡崎市教育研究大会 報告

提出されたレポート一覧

- ・自然に進んでかかわっていく感性豊かな子の育成
〜みんなでつくる、考える力を高めよう 石にふれあう活動を通して〜 【常磐東小 柴田 将貴】
- ・相手の考えや思いにかかわり合いながら、自分の考えを表現できる子供の育成
―「さがそう矢南の自まん 学区の生き物をしらべよう」の活動を通して― 【矢作南小 長谷志津香】
- ・自然に親しみ、自ら追究する子の育成
〜小5「ぼくらはヤゴ探検隊」を通して〜
- ・ふるさと夏山と共に歩む子どももの育成
―5・6年 総合的な学習 「アイラブ夏山」の実践を通して―
- ・違いを認め合い、みんなで仲よく遊ぶ子どももの育成
―ろう学校との交流「仲よしパワーを届けよう」の活動を通して― 【常磐東小 石川 豊和】
- ・地域社会の一員としての役割認識を育む総合的な学習
〜「守ろう！大切な命」の実践を通して〜
- ・豊かに感じ、自ら考えを深める子供の育成をめざす
〜3年「いろいろな国の人となかよくなるろう」の実践を通して〜

【大門小 尾崎めぐみ】
【三島小 田村 千恵】

- ・からだ意識をもとにした新たな総合的な学習の創造
〜理解するからだと表現するからだの融和をめざした「からだレッスン」の学習と評価〜

◇中学校の取り組み◇

- ・Team 竜海 今地球のためにできること
〜企業のエコ活動成功の秘密をさぐれ〜

- ・環境問題を学び合いの中から自分たちの問題としてとらえることができる生徒の育成をめざして
〜3年生の環境学習の実践を通して〜

- ・環境を見つめ、考え、働きかける生徒の育成
〜自然との共生をめざした環境学習を通して〜

- ・人とかがわる中で、自分の生き方を見つめる生徒の育成
〜総合と学校行事を有効関連させた「生き方学習」を通して〜

- ・持続可能な社会づくりに主体的に参画できる生徒の育成をめざして
〜岡崎市環境プログラムの実践から〜

- ・本年度は13本ものレポートが提出され、充実した討議がなされました。その中で、地域教材を用いることの最大の利点は、学校や地域をよく知り、愛する心を育てることができるという点であることが再確認されました。また、助言者の鳴門教育大学教授西村公孝先生からは、岡崎市の取り組む環境学習プログラムの効果的な活用方法についてご指導をいただき、社会の構成員としての一員としての意識をどのように育ててい

くかについてご示唆をいただきました。
また、本年度は次の5人の先生方が総合部からの県教研の正会員に選ばれました。岡崎の総合学習の質の高さを示し、熱心な討論を期待しています。

総合学習

尾崎めぐみ先生 (大門小) 高沢秀昭先生 (藤川小)

環境問題と教育

千賀しのぶ先生 (竜海中) 柴田多津彦先生 (北野小)

能力・発達・学習と評価 山本典弘先生 (福岡小)

○ 第4回岡崎総合的な学習研究会

・日時 平成23年2月26・27日

・会場 野外教育センター(千万町町)

・内容 実践の交流 地域散策

※ 毎回、実践における悩みを持ち寄り、その解決のために助言し合うことのできる会となっています。

また、助言者の久野先生・三浦先生・福應先生からは的確なアドバイスをいただくことができます。これから学習を進めていきたい先生のご参加をお待ちしています。

生活科・総合学習教育学会京都大会より

6月26日・27日の両日、京都市において、「第19回日本生活科・総合的学習教育学会」が行われました。

本大会では、提案授業・シンポジウム他、優秀実践が報告されました。その中で、東海中学校の堺正司先生と竜南学校の森田淳一先生が実践発表をされました。全国の先生方に子どもを学びを中心にする学習を発信することができ、高い評価を得ました。

「中学校段階における「協同」的な学びを重視した総合学習の授業」の「いのちプロジェクト」の実践を通して」

竜南中学校 森田 淳一先生

「待ったなし！中学校における総合の実践開発」

東海中学校 堺 正司先生